

令和4年8月8日

2022年度 新潟放射線治療技術懇話会 教育講演 Q&A

『放射線治療品質管理が変わる!?!-変わるものと変わらないもの-』

広島がん高精度放射線治療センター 医学物理士長 小澤修一 先生

Q1

さまざまなものが標準化していく中で、小照射野に関しては各装置・エネルギー毎、整備状況等による差が出やすくなる領域のように感じます。何か対策などあるでしょうか。

A1

小照射野は、2x2 までであれば、ピンポイント電離箱で正しく測定でき、施設間のばらつきも小さいですが、それ以下のサイズでは、施設ごとの測定のばらつきが急に大きくなります。ですので、小照射野こそ、ビームモデルの標準化が有効だと思います。

ユーザーとしては、自分たちの持っている測定方法の結果と、標準モデルの計算結果との相違がどのように生じるかを、コミッシュニング時に把握しておき、それをベースラインとして、同じ測定機器で定期的に確認すれば良いと思います。

今後、小照射野の計算結果については、自施設の結果を多施設平均と自動で比較できるウェブシステムを構築中です。

完成しましたら、お披露目いたしますので、ぜひご利用ください。

Q2

HIPRAC 技術支援ワーキングをお願いする場合、お願いする側はどの程度の治療経験（知識）が必要でしょうか？

A2

HIPRAC 技術支援への参加について、治療経験や知識というものは全く問いませんので、ぜひ以下からお申し込みいただければと思います。

<https://hiprac.jp/working-group/independent-evaluation/>

TG-1 の申込については、

https://hiprac.jp/working-group/independent-evaluation/tg-1_contact/

記載された医療機関と代表者宛に証明書を発行させていただきます。

正式名称での記載をお願いします。とありますが、代表者の記入欄には、「担当者宛でお

願います」のご記載いただければ、結構です。
ぜひお気軽にお申し込みとお問い合わせをお願いします。

Q3

今回はたまたま小澤先生のご講演を聞いて HIPRAC の技術支援関係をしたわけですが、HIPRAC の技術支援のような事業は、財団等々、いろいろとある情報を一括して得られるような情報の集約化はできないもののでしょうか。

A3

ご指摘ありがとうございます、そのとおりですね
現在、複数の団体が種々の情報提供を行っていますが、全国の活動を一括で管理しているところはないので、ユーザーとしては、不便ですね。

最近、放射線治療品質管理機構の地域連携支援の案内を、全ての財団ガラス線量計の結果の送付の際に、同封いただけないかという議論が行われています。

https://www.qcrt.org/pilot_study/about_area

徐々に、いろいろなものがリンクしていくような仕組みを構築しているところであります。とはいえ、各団体が独立性を確保するというもの第三者評価では重要なポイントとなりますので、第三者評価を行う団体が、他の第三者評価を行う団体の紹介をするのは難しいかもしれません。

新潟県の研究会やあすなる会で、誰でも参加可能な全国的な活動情報をまとめて、皆様に発信するのは良いかもしれないですね。

以上